

実践活動記録

ふるさと城端に愛着と誇りをもち、未来を切り拓く子供の育成
～ふるさと南砺科(城端学)を通して～

1 はじめに

○ 実践の目的

ふるさと城端の伝統文化、芸能、産業、文化財、自然について調べ、体験し、関わる人々の願いや生き方等について学ぶことを通して、ふるさとを誇りに思い、未来を切り開く子供の育成を目指す。

○ 実践の内容・方法

城端小・中学校で、主に以下の視点において9か年を見通した「ふるさと南砺科(城端学)」の年間指導計画を作成した。

- ・城端地域のひと、もの、ことの学習材の発掘と整理
- ・総合的な学習の時間を中心とした各教科・領域等との横断的な学習の展開の可能性
- ・子供の学びの可能性

年間計画を基に、今年度の子供たちの興味・関心、思いや願いを捉え、各学年や学級において、子供と教師、地域の人と知恵と力を合わせて、共に実践を創り上げていく。

2 活動の実際

○ 民謡クラブ 城端の伝統「麦屋節」「こきりこ」を引き継ごう

民謡クラブには、4年生以上の民謡に興味のある子供たちが集まっている。クラブの時間や夏休み中に、城端の伝統である「麦屋節」「こきりこ」の踊りや唄、三味線等の楽器について、地元の外部講師の指導のもと練習に取り組み、学習発表会で披露した。民謡に触れることで、民謡が好きになり、地元の伝統を引き継いでいきたいという思いが芽生えている。



三味線の練習



「こきりこ」の踊りの練習



学習発表会での披露

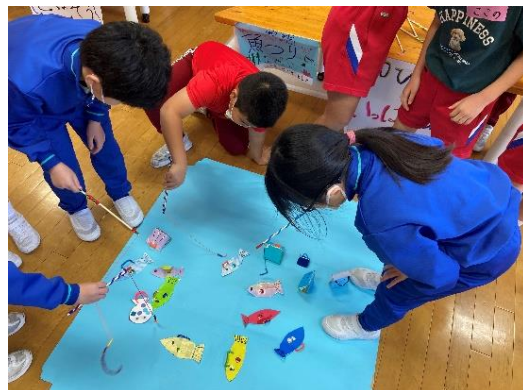
○ 第2学年 生活科「となみ総合支援学校と交流しよう」

2年生は毎年、となみ総合支援学校の低学年の子供たちと交流をしている。今年度も、1回目は11月16日（水）にとなみ総合支援学校で、2回目は11月25日（金）に城端小学校で交流活動を行った。

城端小学校での交流では、「なかよし交流会」を企画した。学習発表会で発表した劇「スイミー」を再演し、その後、生活科で子供たちがつくった「うごくおもちゃ」で、一緒に遊んで楽しい時間を過ごした。



「ピンをたおそう」（ボーリング）



「どの魚をつろうかな」（魚釣り）

1回目の交流会の後には、となみ総合支援学校の友達と自己紹介をし合ったり、学校を案内してもらったりしたときに見つけた「すてきなところ」をカードに書いた。自分や学校のことを熱心に説明してくれた気持ちを感じ取っていた。2回目の交流の後には、同じグループの子供に手紙を書いた。2回の交流を通して、子供たちの心の交流も深めることができた。

○ 第3学年 総合的な学習の時間「ギフチョウを育てよう」

3年生では、自然豊かな城端地域に興味・関心をもつことを願って、1年間を通してギフチョウの観察や学校の周りの植物、城端の桜調べ等を行っている。子供たちは、ギフチョウの卵から幼虫、蛹になるまでを観察したり、一生懸命にカンアオイの葉を入れ替えるなどの世話をしたりしてきた。

ギフチョウの餌となるカンアオイが減っていることや成虫になる確率が低いことからなかなか数が増えないことを心配している子供たちは、春になってギフチョウを放蝶できることを楽しみにしている。日本固有種で絶滅危惧種でもあるギフチョウが、城端に生息していることに子供たちは驚き、みんなで守っていきたいという気持ちを強くもった。



ギフチョウの卵と幼虫



蛹の管理を地域の方に託す

また、ギフチョウについて調べる中で、ギフチョウのふんを使って「ふん染め」ができることを知り、自分たちもやってみたいと準備に取りかかっている。3学期には、草木染め等に取り組んでいる地域の講師の方に来ていただき、ハンカチの「ふん染め」にも取り組む。

○ 第4学年 総合的な学習の時間「大好き！城端」

これまで、桜の観察、ギフチョウの放蝶、「城端曳山祭」についての調査、「むぎや祭」への参加等、城端地域に関する学習に取り組んできた。「むぎや祭」では、実際に参加して「じゃんとこいむぎや」を披露し、地域の方々の喜びの声を受けることで、城端に対する愛着をもち、地域の自然や文化を大切にしていこうという思いをさらに高めていった。

伝統をつないでいく大切な役割に気付き、2月に開催される伝統ある「つごもり大市」に子供たちも出店することとなった。「SDGs」と「城端らしさ」をコンセプトに商品を発案し、「城端の人々にもっと笑顔を」と考えながら制作を続けている。



「じゃんとこいむぎや」披露



ギフチョウの放蝶

○ 第5学年 総合的な学習の時間「米づくりを通して暮らしを見つめよう」

5年生は、毎年米づくりに挑戦している。4月の「田んぼの学校」開校式を皮切りに、種植え、苗づくり、田植え、草取り、稲刈り、脱穀、米の販売、閉校式を兼ねた感謝集会を地域の方と一緒にに行っている。子供たちは、米づくりにはたくさんの手間がかかることを体験を通して実感していた。また、米の宣伝や袋詰め、販売等の活動を通して、働くことの大変さや喜びを感じていた。



「田んぼの学校」田植え

米づくりに携わる方々の苦労や努力、販売等の世の中の仕組みを学びながら地域への愛着を深め、地域に貢献したいという思いを高める活動となった。



「田んぼの学校」稲刈り



子供が作成した
米の販売用パッケージの
デザイン

○ 第6学年 家庭科・総合的な学習の時間

「城端絹織物で『卒業コサージュ』をつくろう」

かつて城端地域では、「城端絹織物」の生産が盛んだった。子供たちは11月、「蚕がつないだ南砺の産業 企画展」を見学し、市内の井波地域では蚕種、五箇山では養蚕が盛んに行われており、それらの地域が、城端地域の絹織物とも、「蚕」を通してつながっていたことを初めて知った。



「蚕がつないだ南砺の産業 企画展」見学



城端絹織物について学ぶ

さらに、城端絹織物に興味をもった子供たちは、城端で唯一の絹織物生産者から詳しく話を聞いた。2頭の蚕がつくった玉繭からとれる玉糸からの「しけ絹」の生産に力を入れ、国内外で販売されていることを知り、さらに驚き、興味を高めた。子供たちは、3学期に「しけ絹」を使用した「卒業コサージュ」づくりに挑戦し、卒業式に自分の胸に飾る。

3 おわりに

ギフチョウの保護団体や城端の桜の会、米作りの協力者等地域の人々の学校教育への熱い思いと協力のもと、地域に根差した「城端学」の学習を展開できた。さらに活動が発展、充実したものになるよう、子供がより主体的に学びを進め、追究していく学習展開となることが大切である。そのためにも、①教師自身が、学習材のもつ価値を見いだす教材研究を深めること、②子供一人一人を丁寧に見取ること、③地域の人と目指す方向性を共有して連携、協力する支援の在り方を考えていくことを大切にして、実践に取り組んでいく。